

# 社長のひとりごと【高齢者住宅】

全ての「社長のひとりごと」がWEBで読める!  
『くぼかわよしみち.com』毎月20日更新!!

くぼかわよしみち.com

検索

ホームページ

asahiglobal.co.jp

gloval-mie.co.jp

super-chintai.com

goldtrust.co.jp

goldage.co.jp

kubokawayoshimichi.com

agg-hd.co.jp



## 『適合高専賃・ゴールドエイジ』日経BP 出版記念 第2弾

アサヒグローバル株式会社 代表取締役  
ゴールドトラスト株式会社 代表取締役  
ゴールドエイジ株式会社 代表取締役

文/久保川 議道

text:Yoshimichi Kubokawa

「適合」「高専賃」とは、国土交通省の省令(法律)で2005年12月1日からスタートした、高齢者居住法による「高齢者専用賃貸住宅」のことです。

そして「適合」とは、一言で言うと、介護もあり、食事もあり、24時間の生活サポートが受けられるのに、「有料老人ホーム」の届け出が必要ありません。介護保険の支払いは、国がたった3割の負担で、県や市町村が7割の負担です。ですから地元有料老人ホームがたくさん建設されると市町村の支出が膨大が増えて赤字になるので、本当のことを言うと、有料老人ホームなんて建ててほしくないのですね。特に別の県から引越しをして来る老人は、住民税などを支払っていないので、市町村は介護保険を支払いたくないのです。まあ色々な事情があつて、もう有料老人ホームは日本では規制されて建設できなくなつてしまいました。

それでも老人の数はどんどん増えて、「老老介護」や「孤独死」や住宅内での「事故死」が社会問題になっています。老老介護とは65才以上の夫婦が介護をしあっていることですが、国のアンケートでも、なんと2人に1

人の老人が「一度は殺したいと思ったことがある」と答えています。そして自分も死にたいと考えてしまうんですね。孤独死はもつと悲惨です。亡くなつても2週間も3週間も発見されないまま、死体も腐って見る姿もあります。世界の先進国でこんな孤独死があるなんてことは聞いたことありません。日本だけです。医療も介護も国はいつたい何をしているんだ。私は怒りがこみ上げてきます。

また老人の交通事故の死亡者は年間4878人です。そしてなんと家庭内事故でお亡くなりになる老人が7483人です。バリアフリーや手すりがあれば事故は防げるのです。

日本の戸建ての住宅のバリアフリー普及率は3%で100戸に3戸だけ。そして賃貸住宅ですと0.3%で、1000戸に3戸しか加齢対応設計のバリアフリーの住宅はないのです。欧米諸国と比べても全く日本の住宅は貧しくて、高齢者への配慮など全然されていません。そしてこの事故死の10倍の7万5千人の老人が病院に入院したあと、体力の回復ができず、肺炎やその他の病名でお亡くなりになっているのです。それほど家庭内でのちよつとした事故も、若い人と違って、

高齢者にとっては命取りになってしまふんですね。

国立社会保証・人口問題研究所は2055年の人口は9000万人。65才以上は3600万人と発表しています。15才から65才までの労働人口は2005年から50年先の2055年には46%減少しますし、65才以上の人口は20%から40.5%に増加します。

今は労働人口33人に対して老人1人ですが、50年後には13人に対して1人の老人となります。なんと老人1人を1人の労働人口でささえる「マンツーマン社会」の登場です。

これは世界初の「超高齢社会」ですから、国家として「存続可能なのか」と言う議論もある程の、社会問題となつていっています。ゴールドトラストの介護付高齢者マンションの果たす役割も、十分に価値のあるものになる。私は確信しています。

ぜひ一度、日経BP出版の「ゴールドエイジ・老後の住まいはどこですか」をお買い求め、ご読いただければ幸いです。

ゴールドトラスト株式会社  
代表取締役

久保川 議道 著



日経BP出版